北海道医報
ISSN 0913-0217　2014.11.1. 第1154号
発行人　北海道医師会長　長瀬　清
発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp　頒価 1部 250円（税別）

節風季

医師会の今後の使命

―北海道医師会が魅力的であるには―

情報広報部長　山科　賢児

北海道医師会からの日本医師会への加入数の減少に歯止めがかからない。そのため今年度から北海道医師会の日医代議員数が13名から12名と1名減少した。8月31日現在の北海道医師会の会員数は8,264名、日本医師会の会員数は5,857名となっている。北海道の総医師数は約12,850名でこの10年間に600名増、北海道医師会員数は8,200名前後と横ばいである。しかし日本医師会員数は6,220名から5,850名と約400名減少している。

現在北海道医師会からは、中川日医副会長と日医理事として長瀬会長が、監事として松家札幌市医師会長が日医執行部に参画し、日本医師会の意思決定に関与している。また北海道医師会は単独で北海道ブロックを形成して日医の外部委員会に各一名委員を送り込む環境にあり、日本医師会で発言する機会は多い。

会員数や代議員の数の減少が北海道医師会の日本医師会での発言力の低下につながるとは思えないが、これほど会員数が減少するのはなぜか考えるべき時だろう。また北海道医師会の会員数の低迷の原因や、「医師会に魅力がない」「医師会に加入してもメリットがない」といった声に耳をかたむけ組織の役割を見直す好機とも考える。

この拙文を読んでいただいている方の多くは既に北海道医師会員である。会員各位は北海道医師会についてどのような考えをお持ちであろうか。そう問われても多くは関心や興味はなく、返答に窮する方が多いのだろうか。高い会費を払っても何もメリットはないし、読んでもつまらない北海道医報が送られてくるだけだとおっしゃる方もいるだろう。その通りかもしれない。

郡市医師会は医療現場の問題や悩みを相談解決する場として、日常の診療に必要な情報を得るためとして必要な存在であり、医師の交流の場としても存在意義がある。だが北海道医師会は会員と交流する機会が少なく、会員にとってその働きや実態が分かりづらい。北海道医師会は単に日本医師会の方針や情報を郡市医師会に伝え、また郡市医師会の要望を日本医師会に伝える役目と考えられているようである。確かに会社に例えると丁度中間管理職のような存在である。地方分権の流れが進むと北海道医師会の存在意義がさらに問われることになる。北海道医師会は悩み多き組織なのである。

日本の医療は転換期を迎え、「社会復帰」と「在宅医療」の推進へと医療制度は変化し始めた。2014年度の診療報酬改定は急性期病床が絞り込まれ、病院は生き残りをかけ診療機能の強化や再編をしなければならなくなった。今改定は団塊世代が後期高齢者の年代となる「2025年の医療・介護提供体制」への第一歩である。これによって診療機能の強化や病棟再編そして在宅医療が進めば勤務医や開業医の仕事環境は当然変わるだろう。

今や医師会が唯一の医療団体ではなく、病院は日本病院団体協議会などに属し組織としての地位向上や経済的基盤の整備に努めている。しかしそこには個人としての勤務医の声が反映されているとは言い難い。勤務医が開業すると医療制度や医師会に対する意識が如何になかったことに気づくように、組織内の勤務医は医療制度や医師会についての理解は必ずしもあるとは言えない。開業医もまた診療所で患者を診る形から在宅訪問診療へと診療スタイルが多様化し、医療制度の行方に無関心ではいられなくなっている。

日本の皆保険制度は既に矛盾や理不尽だらけでいつ崩壊してもおかしくない状況である。しかしそれに気づいていても誰も改革の声を出そうとしない。ならば勤務医と開業医の声を代表する医師会は将来を見据えた独自の医療ビジョンを示し、医師が安心して診療のできる医療制度実現のために、政府や地方自治体へ毅然とした提言や行動をすることだろう。それが医師を代表する団体の証であり、多くの医師からの賛同を得る近道である。

近年の日本の経済の悪化の影響は医師の生活にも及んでいる。厳しさを増す医療状況の中で、医師会に課せられたもう一つ使命は、医師の仕事や生活をバックアップするきめ細かい福利厚生事業の充実と医業経営のサポートである。それは同時に会員加入促進の方法ともなるはずである。

医師が医師会に加入する動機には医師会への高い関心や共感が必須である。それには医師会と非会員との直接的なコミュニケーションとお互いの信頼関係が決め手となる。日本医師会も組織強化への取り組みとして会員数増を喫緊の課題として打ち出した。北海道医師会は日本医師会と協調しつつも、医師会を魅力ある組織にするために非会員の加入への地道な勧誘運動と、会員の要望に応える斬新な活動を推し進めたい。